

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

No.25

1995.4.1.

「図書館と図書に関する雑感」

岩城秀樹

今回は私の図書館と図書に対する雑感を書かせていただくということで、一研究者の端くれとしての図書との関わり方、及び一個人としての図書との関わり方について思いついたことを書いてみたい。

まず、一研究者としての立場から見た図書館であるが、研究上の資料では現在のところ印刷物がその主たる源泉であり、私の場合は専門の財務論（私の認識では各経済主体の資金調達と投資の問題を扱う学問分野）に関するトピックスを扱った学術誌に常に目を通しておかなければならない。そのようなわけで図書館は私の研究の情報源であり、なくてはならない存在なのである。ちなみに南山大学図書館ということで所感を述べると、私が南山大学へ就職することを決めた要因は南山大学図書館の財務論関係の学術誌の数が充実していたということであった。どの位充実していたかと言うと、私は学生時代の最後を一橋大学で過ごしたのだが、一橋大学は日本の国公立大学における社会科学系の拠点の一つと言うことで社会科学系雑誌の蔵書数を誇っていた。大げさに言えば、こと社会科学系の分野に関しては図書館の充実度は国内一、二であると、私をはじめとして関係者の多くは信じていたのである。ところがである。就職前に研究会に呼ばれて南山大学を訪れた際に、経営学部の飯原先生に図書館を案内して頂いた際に私は驚きを禁じ得なかった。何と一橋に無い雑誌が所蔵されていたのであった。さらに文科系大学であるのに関わらず、確率統計関係の専門図書並びに学術雑誌もかなり充実していたのである。かくして幸か不幸か私は南山大学への就職を決意してしまっただけである。専門分野の図書が充実し

ていると言うことは学者冥利この上ないのであるが、これは南山大学において財務論のスタッフが充実しており、この分野に関わる諸先生方の尽力の賜なのである。気負ったことを書かせていただくならば、このように築かれてきた伝統を継承し発展させることが（少々肩の荷が重い）私に与えられた使命であると思っている。

さて次に、一個人としての図書との関わりについて述べてみたい。そもそも私が研究者の道に進んだのは高校時代に出会った何冊かの図書による影響が大きい。こう言うと言えがいがいいが、単に読書の習慣が身に付き本を片手に人生とは何ぞやなどと思い悩んでいたのである。そして、図書より知識を得るということの楽しさを知ったのである。読書に熱中するあまり時には授業をサボって自宅近くの図書館に籠っていたこともあった。そんな時に、できることならば本を読んで思索に耽れる人生を送ってみたいと思いつき、漠然と研究者という職業につけばこの夢が叶うと考えて今日に至ってしまったわけである。しかし、現実に大学教員として研究者になってみると日々の業務に追われて、専門分野以外の本を気ままに読んで思索するという時間をとることが難しい。あの無限に時間があるかのように思えた学生時代（特に大学学部時代）に戻れたならばと叶わぬ思いに駆られてしまうのである。そんな折り、現在の大半の南山大学の学生を観ていると「貴重な時間をただ茫然と過ごしているのでは。」と懸念してしまうのであるが、実際のところ学生諸君どうなのでしょう？

Hideki IWAKI: (経営学部講師)

祝

新入生諸君・入学おめでとう!!!

[新入生歓迎企画：その1]

はじめての図書館

——南山 太郎・花子さんの場合——

太郎・花子：今日初めて図書館にやってきました。どうすればよいのかさっぱりわからないなあ。

図書館員：ようこそ、図書館へ。入口のゲートを押して入ってください。

太郎：こんにちは。入口を入るとすぐにカウンターがあるんですね。

図書館員：左側が、本の貸出や返却を受け付ける閲覧カウンター、正面が、いろいろな質問を受け付けて皆さんの利用の手助けをするレファレンス・カウンターです。このカウンターでは、オンライン情報の検索や、南山大学にない資料を取り寄せる仕事もしています。とにかく、わからないことがあったら気軽に声をかけてくださいね。

花子：図書館の人に助けてもらえるんですね。よかった。ところでこちらにあるコンピュータは何ですか？皆が自由に使っているみたいですが・・・

図書館員：ああ、これはGEMMAII(ジ'ェンマ'ツカ)という愛称で呼んでいるのですが、図書館の資料を探し出すための検索用端末です。書名やキーワードを入力することによって必要な図書を探して、それが図書館のどこにあるかを確認することができます。貸出中かどうかもわかりますよ。マウスを動かして操作してみてください。わからないときは画面の"? "マークをクリックすると説明が出てきます。それを参考にしている触ってみてくださいね。

花子：それじゃあ、GEMMAIIを使えば図書館の本が全部探せるんですね？

図書館員：全部といたいところですが、実は図書館にコンピュータが導入された1985年以前に受け入れた本のなかには、データが入っていないものがあります。ただし、雑誌のデータは全部入っていますけどね・・・だから、1985年以前に出版された図書を探す場合はGEMMAIIで探せなくてもあきらめないで下さい。

花子：GEMMAIIで探せないとなるとどうすればいいんですか？

図書館員：カード目録で探せるんですよ。タイトルや著者のアルファベット順に図書カードがファイルしてありますからめくってみてください。

太郎：ちょっとめくってみようっと。ほんとだ、日本語もタイトルも読み方のアルファベット順になっているんですね。ええと・・・例えばこの『フランス文学史』っていう本はどこにあるんですか？

図書館員：カードの左肩に[950K/1795]と番号が付いているでしょ？本の背にも同じ番号のシールが貼ってあって、私達はこれを請求番号と呼んでいます。図書館の本はこの請求番号の順番に棚に並べられているんです。この本のように「K」という記号が付いているものは、2階と地下1階の閲覧室で自由に手にとって見る事ができる図書、「K」が付いていないものは書庫に保管してある図書です。「R」が付いているものは、1階の参考図書コーナーにある貸出禁止の図書です。

太 郎：書庫に保管してある本っていうのは、見る事ができないんですか？

図書館員：いいえ、見ることも借りることもできますよ。3年生にならないと書庫には入れないので、カウンターに書庫内請求票を出してとってもらいます。請求票に本の請求番号とタイトルと自分の名前を記入して閲覧カウンターに出して下さい。GEMMAⅡで探した本は学生番号を入力するだけで請求票がプリントできるようになっています。

花 子：GEMMAⅡってなかなか面白そうですね。私もGEMMAⅡを使えるようにならなくっちゃ。

図書館員：私たちも応援しますからがんばってね。

太 郎：ところで本を借りるにはどうしたらいいんですか？

図書館員：借りたい本と学生証を、閲覧カウンターに持ってきて下さい。オンラインで手続きします。手続きしないで本を持ち出そうとすると出口で警告音が鳴りますよ。とはいっても、本以外のものでも鳴ってしまうことがあるので、そのときは一度戻って係員の指示に従ってくださいね。

太 郎：なんだか出るときはドキドキしちゃうなあ。

図書館員：それから、返却期限を過ぎてしまうと1日1冊10円の延滞料をいただきますから注意してくださいね。

太 郎：ええっ！？お金をとられるんですか？

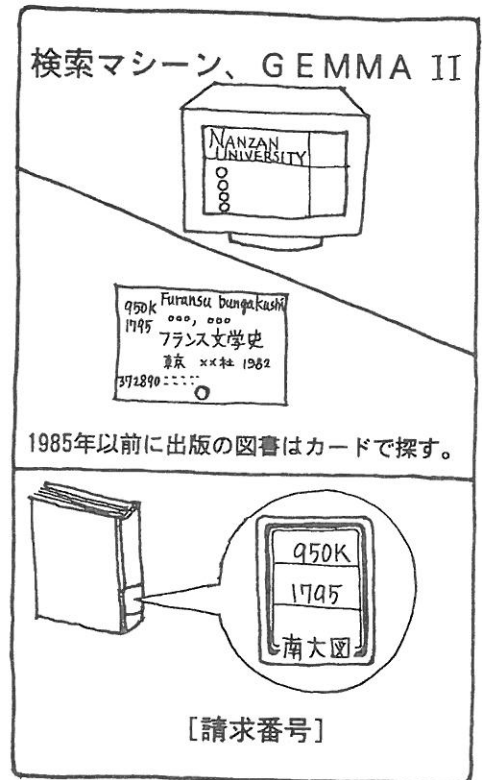
図書館員：そうですよ。期限はきちんと守ってください。期限内に本と学生証を持ってくれば、予約が入っていない限り貸出の更新ができますからね。

太 郎：へえ、予約や更新ができるんですね。本は何冊借りられるんですか？

図書館員：一般の図書は5冊2週間、その他に指定図書が2冊1週間借りられます。

花 子：指定図書って何ですか？

図書館員：指定図書というのは、先生が授業を受ける皆さんに読んでおいてもらいたい本を登録して、特別なコーナーに別置したものです。先生ごと、授業ごとに棚の見出しがついていますからチェックしておくといいですよ。



太 郎：へえ、ここがそのコーナーか。あっ、こっちにコピールームがありますね。

図書館員：図書館の資料は著作権の範囲内でコピーすることができます。資料以外のコピーは図書館ではご遠慮下さいね。

花 子：そういえば、先生が授業で『判例時報』っていう雑誌を見せてくれたんです。あの雑誌を探してコピーしたいな。

図書館員：雑誌はこっちにありますよ。請求番号は「Z」ではじまります。和雑誌、洋雑誌、大学の紀要類の3つに大きくわかれていて、その中で請求番号順に並んでいます。1階にあるのは比較的新しい巻号のものです。雑誌は、ある程度古くなると何冊かまとめて製本して書庫に保管されます。その保管状況はGEMMA IIでわかりますし、製本台帳を使うのもよいでしょう。書庫にしまっている雑誌も、請求番号と製本状況がわかればさっきいった請求票で出してもらえますよ。ただし雑誌類は貸出しができませんので、必要なところがあればコピーして勉強してください。

太 郎：なんだか勉強、勉強ってちょっと疲れちゃった。休憩するところはないですか？ジュースのみたいや。

図書館員：図書館の中ではジュースなんてもってのほかですよ。飲食、喫煙は禁止です。それからおしゃべりも慎んで下さいね。ほかの人の迷惑にならないよう心がけてください。グループで話し合いながら勉強したい人は3階にグループ閲覧室がありますから、閲覧カウンターで申し込んでから利用して下さい。そこなら気がねなく討論しながら勉強できますよ。

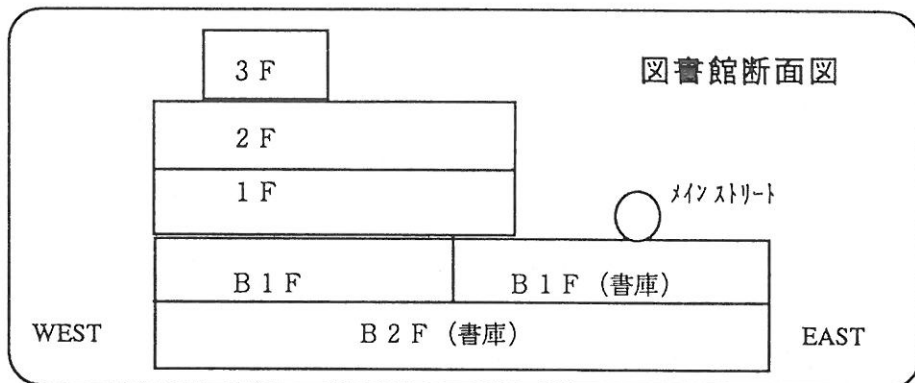
花 子：ありがとうございました。もっといろいろお聞きしたいんですが、これから授業なんです。

図書館員：わからないことがあったらいつでも遠慮なく聞いてください。待っていますよ。

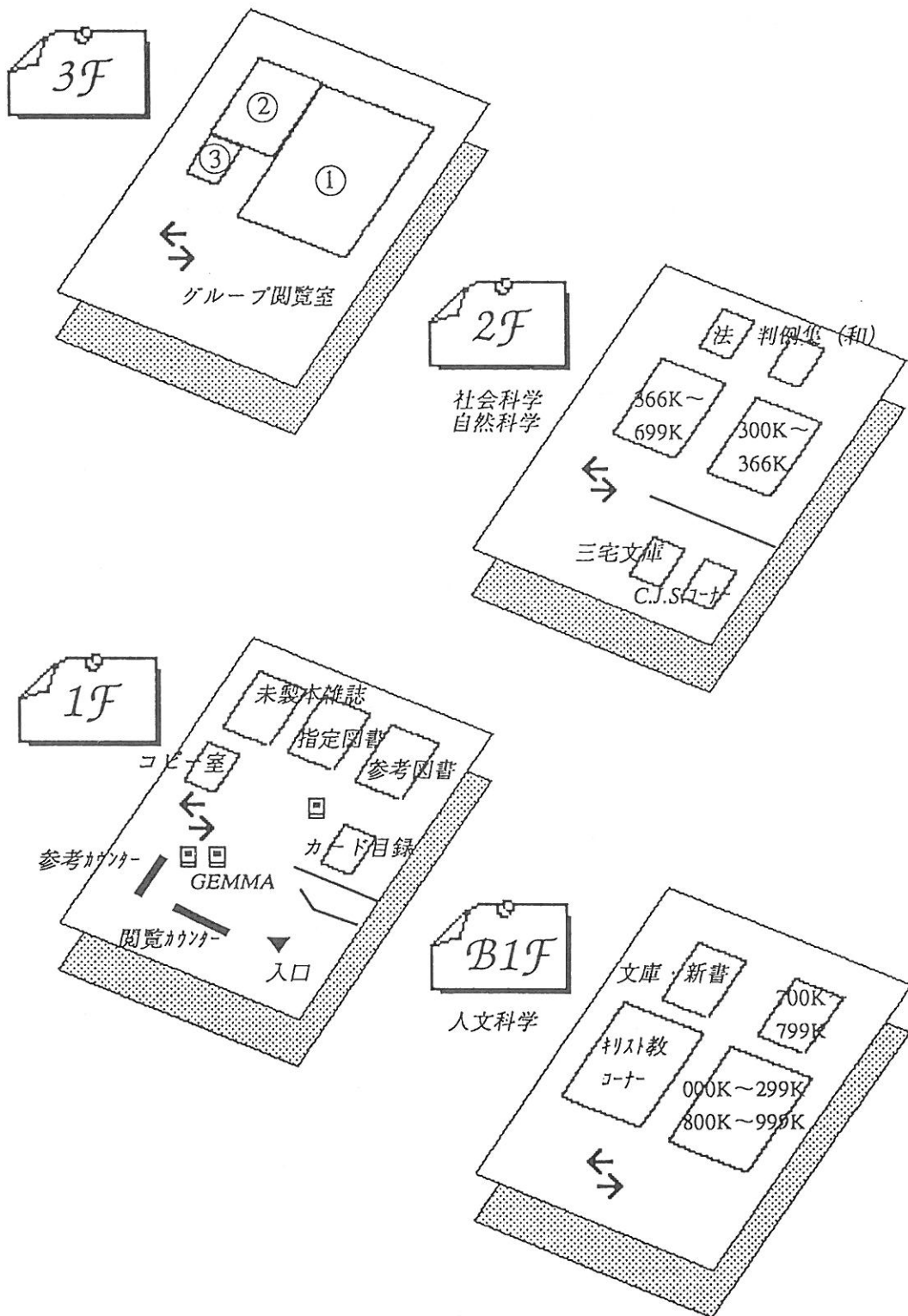
太 郎：それじゃあ、ぼくは学食でジュース飲んでからまた来ます。GEMMA IIをさわってみようっと。

花 子：図書館をうまく使いこなすことは、これからの4年間の生活でとても大切だと思います。これからもいろいろ教えて下さい。

図書館員：図書館はがんばる人を応援します。みんなの意見も聞きながら、より良い図書館にしていきたいと思っていますので、ご協力よろしくお願ひしますね。



館内案内図 (開架)



[新入生歓迎企画：その2]

・・・図書館の達人

参考図書を使おう！

【参考図書】聞き慣れない言葉だが、知っていて損はないだろう。私の記憶が確かなら、南山大学の図書館の1階にも多くの参考図書が並んでいる。参考図書とは、参考書にあらず。参考文献という意味でもない。一般に文献や資料を探すための手引きとなるものを指して『参考図書』と呼ぶ。例えば、事典や便覧・年鑑といったものがそれに当たり、種類も多い。知っていれば、レポートやいづれ取り組む事になる卒業論文の資料収集に頼もしい助っ人を得たも同然、君にとっての助サン・角サンだ。では、参考図書と呼ばれるものにどんなものがあるか。分かり易い例として、以下に最もよく知られている参考図書を2・3、簡単に紹介する。最後にリストも掲載するので、目を通して【参考図書】の存在を少しでも知ってもらえれば、と思う。ただし、今回リストに掲げたのは参考図書のほんの一部、入門編である。もっと詳しく知りたい諸君は、『文献を探すための本』〈請求番号：015K/204〉や『情報と文献の探索-第2版-』〈015K/202〉を読むか、参考カウンターに相談する事を薦める。

後は、図書館を利用する「君」次第。健闘を祈る！

雑誌や図書に掲載された記事を探すには

「雑誌記事索引

人文・社会編」

日本の学術雑誌、大学紀要などの人文・社会科学関係の記事が収録対象とされている。GEMMA IIでは探せない論文も、これで、探せる可能性がある。

米国の雑誌記事探しには

「The Reader's Guide to Periodical Literature」

アメリカの大衆的な雑誌180誌の記事を収録の対象とした雑誌記事索引誌。

ワンポイント アドヴァイス

上記の参考図書で調べた文献が、実際に南山大学の図書館に所蔵されているかどうかは、GEMMA IIを使って調べて下さい。

(*注)GEMMA IIでは論文をタイトルや著者から検索する事が出来ません。

必ず、雑誌のタイトルから検索してください。

『日本国語大辞典』
戦後出版された国語辞典
のなかではもっとも大規模なもの。
現代語のみならず、古語・方言・俗語を
約50万語収録している。
各語句についても語源・歴史的

ことばと成句を調べる

かなづかいによる表記・アクセント
など必要に応じて詳細な解説が
施されている。



**統計と歴史を
調べる**

『日本統計年鑑』
日本の国土・人口・経済・社会・文化...に
関する統計データを24のテーマで
大別して収録。原則として最終
収録年次は前年となっている。

『朝日年鑑』
日本の代表的総合年鑑。
前年1年間の国内・外の出来事とその関連
資料が収録されている。年間記事が
テーマ別に大別され、巻頭に
目次と索引が付いている。

その他…
物と事がらを調べる

百科事典で調べられる事が以外に多い。
和書『ブリタニカ国際百科事典』
洋書『The Encyclopedia Americana』

次ページのリストには、比較的良好に使用されると思われるものに、※印を付けた。

こりゃ、使える！ レポートの味方！

参考図書一覧

本の情報を調べる

- 国立国会図書館所蔵図書目録
(R/029/10)
出版年鑑 (R/025/52)
日本書籍総目録 (R/025/64)
※日本件名図書目録 (R/027/142)
ブックページ (R/025/207)
Books in Print (R/025/47)

翻訳図書を調べる

- ※翻訳図書目録 (R/027/143)
Index translationum (R/029/11)
書評の情報が知りたい
書評年報 (R/025/28)
Book review Digest (R/025/18)

本の情報と所蔵館がわかる

- 国書総目録 (R/910/543)
新収洋書総合目録 (R/025/25)

雑誌や図書に掲載された記事を探す

- 雑誌記事索引 (R/020/219)
大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録
(R/051/206)
経済学文献季報 (Z/330/Ke29)
法律判例文献情報 (Z/320/H89)
The Readers' Guide to Periodical Literature
(R/020/214)
※MLA international Bibliography
(Z/020/Mo13)
Business Periodicals Index
(Z/330/B95)
Psychological Abstracts
(Z/140/P95)

新聞記事を探す

- 各新聞の縮刷版のインデックス
明治ニュース事典 (R/070/323)
大正ニュース事典 (R/070/319)

ことばと成句を調べる

- 広辞苑 (R/813/191)
新編大言海 (R/813/181-1)
日本国語大辞典 (R/813/178-1)
大漢和辞典 (R/813/190-1)
故事ことわざ辞典 (R/813/197)
時代別国語大辞典 (R/813/174)
全国方言辞典 (R/818/206)
難訓辞典 (R/811/215)
擬音語・擬態語辞典 (R/813/172)
学術用語集 (R/540/101)

統計と歴史を調べる

- 朝日年鑑 (R/059/8)
世界年鑑 (R/059/5)
日本統計年鑑 (SS(000)/350/1)
経済統計年報
(SS(100)/350/1-1)
マクミラン世界歴史統計
(SS(000)/350/3)
国史大辞典 (R/210/4159)

物と事がらを調べる

- ブリタニカ国際大百科事典 (R/031/5-)
The Encyclopedia Americana
(R/033/3-7)
日本近代文学大事典 (R/910/514)
岩波六法全書 (R/320.9/27)

場所と地理を調べる

- 世界地名大事典 (R/290/176)
角川日本地名大辞典 (R/291/1052)
日本地名索引 (R/291/1141)

人と機関を調べる

- ※岩波西洋人名辞典 (R/280/110)
日本人名大事典 (R/281/103)
Dictionary of national biography
(R/283/34)
※Who's who in the world (R/283/31)
研究者・研究課題総覧 (R/281/110)
人事興信録 (R/281/19-6)
会社年鑑 (R/335.4/92)

<資料紹介>

「南部-地鳴りするアメリカ」

栗本慎一郎著 光文社刊 (請求番号 302.5K/418)

アメリカ合衆国は、歴史のみならず、今や日本人にとって、多くの面で関わり合いの深い国と言える。しかし、私たちのこの国に対する視点は西海岸か、さもなくば、一気に、ニューヨーク、ワシントンD.C.へと注がれる傾向にある。次期オリンピック開催地決定や、日本人留学生拳銃射殺事件など、善くも悪くも昨今、この地域がクローズアップされるニュースが続いたが、それは飽くまで最近の話であって、他に比べると、まだこの地域に関する知識、印象は漠然としたものであるように思う。

本書は、自称「経済人類学者」である著者が、日本人の目から、米国南部（テネシー州ナッシュビル）での生活を通して、この国の原点を摸索したものである。第一章では、日本人の南部へのアプローチの仕方、第二章以降、実際の生活、出会った人々、その中で考えた事などが述べられている。著者は冒頭で、日本人のこの地域に対する関心、知識のなさを指摘している。そして、この国の精神的基盤はこの地域にあり、日本人はこの地域に注目すべきだと主張している。

私は、著者の論拠の是非はともかくとして、南北戦争以前は北部と南部、現在では東部、西部、そして南部という地理区分の形成の中で、長い間取り残された（独自の文化を保持した）この地域に焦点を当てるといって、新しい米国観に興味を覚えた。個人的な話になるが、教育実習で社会科を受け持ち、たまたま米国の地理というテーマで行うことになったが、渡された教科書を見ると、南部十三州、取分け、ジョージア、アラバマ、ミシシッピの三州は「ディープ・サウス」（米国の辺境）と呼ばれ、現在でも失業率が高いなどと書かれていた。だからこそ日本企業、例えばトヨタ自動車ケンタッキー州レキシントンにというような、労働力を容易に得られる地域への進出が目立つのであろう。では、この地域は負のイメージのみを持つのかというと、必ずしもそうではなく、著者はWASP（アングロサクソン系のプロテスタントの白人階級）こそアメリカのリーダーシップをとる存在であり（独立以来、政治の世界においても大統領や判事のポストは南部の、あるいはその友人で占められている）、アメリカ文化理解のキーワードであると言明している。そういう意味からも、経済の中心が東部に移った今日でもこの地域はこの国の精神的基盤といえるのかもしれない。

まだ他にも様々な話題が紹介されているが、詳しくは本書を読んで頂きたい。今年は戦後五十年という節目を迎えるということで、日米関係に関する記事も多く見られるが、これを機にこの国の精神的基盤である地域に目を向けるのも良いと思う。もちろんこれ一冊がすべてを物語るものではないので、興味を持たれた方はさらに別の書を求めて図書館を利用して頂ければ幸いである。

(学術情報課：尾形裕司)

研究センター紹介 第1弾!!

ヨーロッパ研究センターへのお誘い

(第一研究棟 B1F)

南山大学には、次の7つの研究所・センターがあります。

- ・アメリカ研究センター
- ・オーストラリア研究センター
- ・社会倫理研究所
- ・宗教文化研究所
- ・人類学研究所
- ・ヨーロッパ研究センター
- ・ラテンアメリカ研究センター

南山で最も新しいセンター

ヨーロッパ研究センター（第一研究棟地下一階にあります。）は、1993年にスタートした本学で最も「若い」センターです。南山の創立者たちの多くがドイツから来たことを思うともっと以前に設置されていても良かったかもしれません。南山とヨーロッパとのつながりは実はとても深いのです。

1989年以来、東欧諸国の民主化、東西冷戦の終焉、ソ連の解体など現代のヨーロッパはまさに世界の激動の中心でした。当センターはそのような現代ヨーロッパの動きを研究したり、議論したりする場として開設されました。

ヨーロッパ研究センターの催し

当センターでは内外から様々な分野の専門家を招いて年間5回程度の講演会を開催していますが、このような講演会は全て学生の皆さんに開放しています。これまで取り上げたテーマとしては、「ヨーロッパの安全保障体制」「統一後のドイツ」「EC（欧州共同体）の通商政策」「ワインづくりを通してみた日欧文化比較」などバラエティーに富んでいます。

さる1993年12月には当センターの正式開設を記念して大きなシンポジウムを愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所などの後援を得て開催し、350人の方々に来て頂きました。このシンポジウムのテーマは「ロシア・東欧の変革とECの対応」でした。今後も一般の方々にも公開されたシンポジウムを主催したいと考えています。このような活動を通して当センターが、中部地域におけるヨーロッパ研究の中心になればと願っています。その他、当センターの研究員の先生方による「月例研究会」が開かれています。講演会や研究会については、必ず

研究センター紹介／ヨーロッパ研究センター

研究センターと聞いても、「？」と思う人が少なくないのでは。GEMMA IIを使える人なら、検索中に”結果一覧”の画面で所在に「アメ研」や「社倫研」といった表示を見たことがあるかもしれません。各センターは、その研究分野の雑誌や図書が多数所蔵されていて、それらの蔵書構成は図書館に比べてはるかに特徴的。まさにセンターをあらわす顔のような存在です。日頃、知る機会が少ない研究センターの様子を、今回からデュナミスで紹介します。

第1回はヨーロッパ研究センターです。

学内に看板を出してお知らせしていますので、関心のあるテーマや興味のある催しの時には遠慮しないで参加してください。また講演会などで取り上げてほしいテーマなどがあれば是非教えて下さい。センターは学生の皆様のために存在するのですから。

資料室について

ヨーロッパ研究センターの資料室は開架方式ですから、皆さんは実際に手に取って本や資料を見ることができます。もちろん図書館のGEMMA IIで検索して資料を探すこともできます。図書は「法律」「経済」「政治」「安全保障」「外交」「文化・社会」のジャンルに分けて配架してあります。ヨーロッパの各国事情や歴史などについては「文化・社会」のコーナーに置いてあります。

英字新聞やケーブル・テレビも

日々、刻々と変化する現代のヨーロッパ事情に対応するため当センターではケーブル・テレビを導入、イギリスのBBCやアメリカのCNN、その他NHKの衛星放送などを見られるようにしています。英語のリスニング力を高めたい方や、リアル・タイムでニュースを見たい方は、是非来て下さい。

新聞も「ファイナンシャル・タイムズ」、「ザ・ユーロピアン」の英字紙2紙と「朝日新聞」を置いてあります。

利用の方法

とにかく一度当センター事務室までお越し下さい。利用書発行の簡単な手続きをして下さればすぐに利用できます。では、お待ちしております。

(前ヨーロッパ研究センター／センター長；渡邊 頼純 助教授)

ライブラリーカレンダー

1995.4 ~ 1995.6

4 月					5 月					6 月									
9:00		4:30		6:30		9:00		4:30		6:30		9:00		4:30		6:30			
0:00		6:00		8:00		6:00		8:00		6:00		8:00		図		書			
1(土)	■					★	1(月)	■					★	1(木)	■			★	
2(日)							2(火)	■	創立記念日の振替休日					2(金)	■				
3(月)	■					★	3(水)	■	憲法記念日					3(土)	■			★	
4(火)	■						4(木)	■	国民の祝日					4(日)					
5(水)	■						5(金)	■	こどもの日					5(月)	■			★	
6(木)	■					★	6(土)	■					★	6(火)	■				
7(金)	■						7(日)							7(水)	■			初	
8(土)	■					★	8(月)	■					★	8(木)	■			★	
9(日)							9(火)	■						9(金)	■			中	
10(月)	■					中 ★	10(水)	■				中		10(土)	■			★	
11(火)	■						11(木)	■				★	11(日)						
12(水)	■					初	12(金)	■				初		12(月)	■			★	
13(木)	■					★	13(土)	■				★	13(火)	■					
14(金)	■						14(日)							14(水)	■			中	
15(土)	■					★	15(月)	■				★	15(木)	■			初	★	
16(日)							16(火)	■						16(金)	■				
17(月)	■					★	17(水)	■				初		17(土)	■			★	
18(火)	■					初	18(木)	■				中	★	18(日)					
19(水)	■					中	19(金)	■						19(月)	■			★	
20(木)	■					★	20(土)	■				★	20(火)	■			中		
21(金)	■						21(日)							21(水)	■			初	
22(土)	■					★	22(月)	■				★	22(木)	■				★	
23(日)							23(火)	■				初		23(金)	■				
24(月)	■					★	24(水)	■				中		24(土)	■			★	
25(火)	■						25(木)	■				★	25(日)						
26(水)	■					初	26(金)	■	記念式典のため4:00終					26(月)	■			初	★
27(木)	■					中	★	27(土)	■			★	27(火)	■					
28(金)	■						28(日)							28(水)	■			中	
29(土)	■	みどりの日					29(月)	■				初	★	29(木)	■			★	
30(日)							30(火)	■						30(金)	■				
							31(水)	■				中							

■：開館時間 図：図書館利用講習会 初：初級編 中：中級編
 書★：3・4年次生書庫入庫日（月・木曜pm 1:00～4:30、土曜am 9:00～11:30）

《編集後記》

新入生の皆さん、入学おめでとう。
 新入生最初の仕事はサークルの
 お花見の席とりかな？
 頑張っってね！！

(A.K., M.K., Y.Y.)



(タイトルサイン：平松富美)

南山大学図書館報 デュナミス No.25
 1995.4.1.発行

南山大学図書館 広報委員会
 編集委員：加藤、黒田、山口
 〒466 名古屋市昭和区山里町18
 Tel. 052(832)3707
 Fax(G3) 052(833)6986